

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第508号
2025年
9月26日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

- 1面 人事委員長交渉、労使協議会、臨時教職員部要請行動
2面 全国教育のつどい、原水爆禁止世界大会、寄宿舎全国集会



民間との給与比較100人規模への引上げ検討

人事委員会交渉

8月25日付で高教組は、県人事委員会に「給与水準の引き上げなどを求める要求書」を提出しました。その後、5日には要請行動を行い、9月10日には小川良昭・人事委員長と12日には局長との交渉を行いました。

志望者を増やすために

人事委員長交渉では、はじめに塚本執行委員長から、職場では週明けの報告を見ると土日に出勤し



小川・人事委員長(左側中央)と交渉する高教組代表=9月10日、静岡県庁東館

比較規模は100人に
これに対し、人事委員長は民間企業との給与比較の調査規模を50人から100人に引き上げること

主務教諭は指導しない
給特法改定で「主務教諭」制度が導入されれば、学校内に階層を作ること

増やすために
はじめに塚本執行委員長から、職場では週明けの報告を見ると土日に出勤し

志望者を増やすために
はじめに塚本執行委員長から、職場では週明けの報告を見ると土日に出勤し

要請しました。
静岡県が率先して賃上げの流れを作ることを要請しました。

臨時教職員部が要請行動

8月22日に高校教育課及び特別支援教育課への要請行動を行いました。高教組から次の、3つの話をしました。

1つ目は、会計年度任用職員の待遇改善です。高校の非常勤講師や、特別支援学校にも多くの職種の方がいて日々、学校は支えられています。

2つ目は、希望する非正規教職員の正規化について。学校現場は、多くの臨時の任用職員や任期付職員の方々が成り立っています。

3つ目は、採用選考が県民に開かれた、公正な運営がされるよう、そのための受験者の個人情報の開示請求について、広く行われるよう、手続き

の簡素化等を求めました。いま学校現場は、法律で定められた教員の定数も満たされず、生徒の教育環境や質の向上の面で問題となっています。

「主務教諭」は導入するな

県教委に「要請書」を提出

6月11日、第217通 あり。給特法改定の常国会において、給特法をはじめ、学校教育法、地教育法、教育公務員特例法等の一部を改定する法案が、参議院本会議で可決されました。

高教組は、7月18日、「給特法改定を受けての条例化に関する要請書」を県教育長に提出しました。

改定法の最大の問題点は、公立学校の教員のみ、膨大な時間外勤務を「在職等時間」という曖昧な概念で労働時間として認めず、一切の時間外勤務手当を支給しないという労働基準法の原則を平然と踏みにじったところに

競争主義的なメリハリ賃金と「主務教諭」の創設は、職場を分断し、管理統制が強められ、教育そのものが破壊されること懸念されます。

<要請項目>

- (1) 実効ある制度の改善、付帯決議の具体化を国に求めること。
(2) 拙速な条例化を行わないこと。

視座

二学期が始まりました。残暑もキツクてバタバタな毎日ですが、今年も修学旅行に連れて行ってもらえるので、それを励みに日々奮闘中な毎日です。

旅の思い出の言葉がいくつも心に残っています。旅の思い出のように授業風景もセットでとりあえず、ここテストに出るぞ、は禁句になくては。

「今こそ小規模校の良さを見直すとき」
教育署名静岡県スタート集会

高教組が所属する「子どもと教育を考える静岡県民会議」が8月31に教育全国署名静岡県スタート集会を開き、山本由美さん(和光大学)を講師に学校統廃合の問題について学習会を行いました。

始めに全国で進む統廃合の状況が語られた。2000年代から高止まりになっているものの、03年から23年の平均で年間約450校が廃校になっている。文科省は、これまでに学校を統合するのは子どもたちの教育のためだと説明してきたが、24年になつてから教育の中身とお金が安くて済むことをセツトで示すようになった。「早く取りかかれればコスト削減」と統合を後押しする言葉も。その後は静岡県の動向を紹介。静岡市・浜松市・牧之原市・掛川市などの計画では、総じてハコモノありきのイメージが強く、教育課程などの中身が語られていないようだ。そして義務教育学校(小中一貫校)の問題点について言及。6・3制から4・3・2制に変えたが、6年生がリーダーの役割を發揮できないなどの課題が多い。大規模アンケート調査でも小5・6の「自信」の数値が低いとか、つくば市が調査で小6の「困難に立ち向かうレジリエンス」値が低く、不登校も

制定されたことも基本法に基づき、高知や奈良で統廃合反対の請願に動くなど、当事者として子どもたちが声をあげ始めている。参加者は例年より多く50名を超えました。会場には各地で統廃合反対に動いたり、小規模校の存続を求めたりしている方々も集まり、講演後に多くの発言がありました。また小規模校の良さについても意見が交わされました。

私は、令和7年7月26日から27日にかけて京都で開催された第64回全国寄宿舎学習交流集会でレポーターとして参加した。内容は、私が以前勤めていた中央特別支援学校での空手同好会における活動だった。当時の中央特別支援学校の寄宿舎には合唱、お笑いなどの独自のサークル活動があり、私も学生時代に習った空手を活かして、空手同好会を発足させた。この同好会の良かった点は、単に技術や、強さを求めただけでなく、空手とおして日常生活にも良い影響が出たことである。空手同好会には多くの舎生が関わった。ある舎生は入舎した当初は、ほとんど人と話すこともしない無口で大人しい性格だった。物事に積極的

「押忍!」に心を込めて
空手同好会における舎生への取り組みについて

取り組む感じではなく、何を促しても「いいです。」と言って無関心の感じだった。しかし、空手を始めてから徐々に自信をもつようになり、とてもハキハキと誰とでも話すようになったのである。唯一の女子メンバーだったBさんは、寄宿舎に入舎した時は、とても内気で皆と話すことが苦手だった。異性に対して、もともと敏感な性格で、たまたま私が隣の席に座った時には逃げ出してしまったことがあった。しかし、障がい芸術祭では、堂々とした素晴らしい演武を多くの人の前で披露してくれたのである。車椅子のCさんは、入舎当時は日課になかなか取り組めず、衣類などで部屋がちらちらしていること

が多かった。職員の声掛けに対しても嫌がってなかなか改善が見られなかったが、空手を高校3年間続けて、最後の年はリーダーとしてよく取り組み、生活面もそれに呼应したように少しずつではあるが、きちんとできるようになっていった。こうした舎生が空手とおして日々逞しくなっていた姿を目の当たりにして、私自身も舎生から多くの事を学ばせていただいたと思っている。

この空手同好会は忘れられない経験の一つであるが、寄宿舎指導員は学校と違って寝食を共にする中で、生活支援だけでなく、心の拠り所となる身近な存在として、学校の教員とは違った存在意義があるとされている。寄宿舎指導員の中には、様々な経歴をもつ方が多く、教員免許の種別も多種多様な強みを活かして、舎生一人一人にいろいろな経験を伝えることが重要な役割とされている。現在、寄宿舎は存続の危機に面している都道府県もある。舎生の減少もあるが、寄宿舎の在り方が問われているように思える。寄宿舎が単に自立を目指すだけの場ではなく、様々な経験をとおして舎生一人一人が心を育みながら、これからの長い人生を自分らしく歩いて行けるように少しでも手助けとなれる場

でありたいと思っている。(沼津聴覚特別支援学校 寄宿舎 山本 武司)

高校生が学び、自分の頭で考える、
その場を
原水爆禁止世界大会

全国の仲間と広島で再会。高校生と広島に行くのは昨年に引き続き、これが2度目となる。昨春、第五福竜丸被災70周年を節目として全国高校生平和集会を初めて焼津で開催したことがきっかけだ。その集会を通して、全国の高校生たちと静岡の高校生たちは直ぐに仲良くなった。昨夏、広島で行われた全国高校生平和集会広島に参加。全国の仲間と広島で再会を果たした。昨秋から「声をあげよう!高校生署名 日本政府は核兵器禁止条約に署名・批准を」の署名に取組んだ。そして今春、全国で集めた2万筆を超える署名を持って全国の仲間と外務省を訪れた。

「2025 世界大会 ヒロシマデー集会(広島県立総合体育館)」に参加。今年是被爆80年ということもあり、オンライン参加者含め3,550人が参加。世界17か国・地域から200名近くの参加があった。広島市長、被爆者の田中さんの挨拶。ゲストスピーカとして中満泉国連事務次長、オーロリアやキューバ、エジプト、メキシコ等の国際機関代表者、アジア・太平洋、欧州の平和運動団体代表者などの報告に一緒に参加した高校生たち

ちは、外国からの参加者の数とその熱い思いに圧倒されていた。そして核廃絶を願っている人が世界にこんなに多くいるということに喜びを感じていた。高校生たちは静岡に帰ってからすぐ藤枝市平和展で広島・長崎の活動を報告した。尚、広島が自分の目で事実を見

に参加した高校生の一人数はその後、長崎大会にも参加。長崎大会に参加した県内の高校生たち二人と高校生平和集会長崎にも参加した。自分事としてこれからの未来を作っていく。そんな機会・場をつくるのが何よりだと考える。山口良一(エバグリーン)

身近な差別の放置が、巨大な暴力になっていく
全国教育のつどい講演・安田菜津紀さん

「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」教育研究会集会2025」が8月17日~19日まで埼玉で開催されました。初日の開会集会は埼玉会館で開催され1,300人が集いました。オープニング行事は幼児から高齢者が舞台いっぱい並び「川口ぞうれつしゃ合唱団」による合唱が始まりました。「ぞうれつしゃ」の舞台は、名古屋市の東山動物園。太平洋戦争末期、全国の動物園で軍の命令による動物の殺処分が進む中、当時の園長らが2頭のゾウを守った。戦後、子どもたちの「ゾウが見たい」との願いに応える名古屋行きの特列列車が仕立てられ、平和の尊さを実感させ子どもたちに夢と希望を与えたという物語を多くの合唱曲で表現しました。続いてフォトジャーナリストの安田菜津紀さんの講演「難民の声、家族の歴史から考えた」共に生きるとは何か」、6つの教育フォーラム、18の分科会

が自由の森学園や浦和の会場に分かれて開催された。安田さんは、ひとりひとりの小さな声を揃え取ることのできる感性を持った方、その優しい語り口調が、とても心地よかったです。大熊町で、津波で亡くなった7歳の娘の汐風(ゆうな)さんを探し続ける木村紀夫さんと沖縄戦遺骨収集ボランティアをしてきた具志堅隆松さんとの交流。二人の人間を大切にできない社会は、みんなを大切にできない」という具志堅さんが2022年1月に福島を訪問し、汐風さんの大腿骨の一部を見つけたという話には、心を打たれたガザのある学校では、毎年福島の復興を願って手紙を書き、風揚げをしてきた。その中には「身近な差別の放置が、巨大な暴力になっていく」という言葉だ。私自身も身の回りの差別に、どう応答し行動するかが問われている。

語り部の話を聴いて歴史を学び、自分の頭で考えてほしい。そして自分事としてこれからの未来を作っていく。そんな嬉しいことはい。そんな機会・場をつくるのが何よりだと考える。山口良一(エバグリーン)



講演・安田菜津紀さん